



新たな取組を糧にして難局を乗り越える～「一丸突破」～

副校長 沖山 宗弘

新年度が始まり早1か月が経ちました。今年度は、新型コロナウイルスの世界的な大流行に伴う非常事態宣言の発令により、学校も長期休業を余儀なくされています。本来であれば、この時期は運動会に向けて子供たちの元気な声がかたまはずの校庭や体育館から子供たちの声が聞こえてこないことは、本当に残念でなりません。一日も早く、このウイルスが終息し、世界中の人々が安心して過ごせる日々が来ることを切に願うばかりです。

今まで経験したことがないような感染症による経済や教育の危機に直面し、自粛や我慢が求められ、精神的にも苦しい日々を過ごさなければならぬ中でも、日々懸命に自分には何ができるか自問自答し、新たな活路を見出そうと取り組んでいる人たちを見ると、頭が下がるばかりです。

私たち教職員も、こうしたみなさんの努力に負けないよう、子供たちとの「つながり」を家庭と連携しながら創出し、学びの機会を維持してこうと、次のような新たな取組を行っているところです。

まず、家庭学習の課題の出し方の取組です。今までは、前学年の復習を行うという視点から出していた課題を、新しい学年の学習内容について少しでも予習できるようなものに移行しました。そのため、できるだけ子供に分かるようにガイドを付けたり、オンラインのどの教材を活用したらよいか、教科書のどのページを見ればよいか分かるようにしたりしました。

次に、「本の福袋」の取組です。関口台町小学校の子供たちは本好きが多いというのが私たちの実感です。しかし、図書館も閉鎖されてしまうという中で、「ぜひ子供たちの読書量を確保できるようにしたい」「普段、手に取らないような本を読むことで、新たな本の魅力を発見してほしい」との願いからこの取組を始めました。勤務が抑えられている学校図書館支援員が選書・袋詰めをしているので、貸し出しの準備完了の連絡があるまで少し時間がかかることについてご了承いただくとともに、この機会だからこそ本のよさにも触れてもらいたいと思います。

さらに、動画の配信の取組です。最初は、子供

たちに「担任の先生を知ってもらいたい」「休校中でも先生方の元気な姿や思いを届けたい」という願いから動画の作成を行いました。徐々に家庭学習の課題を進める上でガイドになるような内容の動画へと移行させるように考えています。

最後に、オンライン会議システムを活用したホームルームの取組を来週から試行的に始められるように準備をしています。学校の役割には、子供たちに確かな学力を育むとともに、社会集団として生きていくために必要な社会性や規範意識などを身に付けさせることにあります。子供たち同士、そして子供たちと教師との対話・関わりがあってこそ、そのことを成立することができます。

学校という場でそのことができない今、通信手段による対面ではありますが、少しでも対話・関わりをもつことは重要であると考えています。様々な課題があることは承知しておりますが、歩みを前に進めなければ何も活路は見出せません。私たちの思いにご賛同いただくと幸いです。

学校は、人で支えられています。関口台町小学校の教職員の合い言葉は「一丸突破」です。教職員はもちろんのこと、保護者の皆様も、子供たちが、互いに心をつなげる中で、この難局を乗り越えていきたいと考えています。

日本人の美德とは何か。この危機に直面してそのことを改めて考えさせられました。私は大きく二つあると考えています。

一つは、いかなる場合にも規律性と秩序を重んじるということです。例えば、これは震災などの際に、整然と列をなし、自分の順番を待ち続けることができるということが証明してくれています。

もう一つは、他者を敬う気持ちを忘れないということです。例えば、日本人はチップなどをもらわなくても、常にお客の目線に立って、最高の接客態度を心がけて仕事に取り組んでいます。人の役に立つことを喜びに変えられるのです。

コロナ禍の中で、子供たちには会えませんが、常に子供たちを思い、その思いに寄り添って、家庭学習の課題を提示したり、オンラインによる対話を試みたりしていきたいと思っています。

引き続き、本校の教育活動にご協力・ご支援のほどよろしくお願いたします。